エ　掃引時間　　測定精度が保証される最小時間
オ　Ｙ軸スケール　10dB／Div
カ　入力レベル　　最大のダイナミックレンジとなる値
キ　データ点数　　400点以上
ク　掃引モード　　単掃引
ケ　検波モード　　ポジティブピーク

⑶　１MHz帯域幅当たりの隣接チャネル漏えい電力測定時のスペクトル分析器は、次のように設定する。

ア　中心周波数　　探索された周波数
イ　掃引周波数幅　１MHz
ウ　分解能帯域幅　30kHz
エ　ビデオ帯域幅　100kHz
オ　掃引時間　　測定精度が保証される最小時間
カ　Ｙ軸スケール　10dB／Div
キ　入力レベル　　最大のダイナミックレンジとなる値
ク　データ点数　　400点以上
ケ　掃引モード　　単掃引
コ　検波モード　　サンプル

3　試験機器の状態

⑴　試験周波数に設定し、送信する。
⑵　電力制御を最大出力とし、隣接チャネル漏えい電力が最大となる状態に設定する。
⑶　複数の空中線端子を有する場合は、それぞれの空中線端子ごとに電力制御を最大出力として測定するほか、運用状態で空中線電力の総和が最大となる状態として測定する。

4　測定操作手順

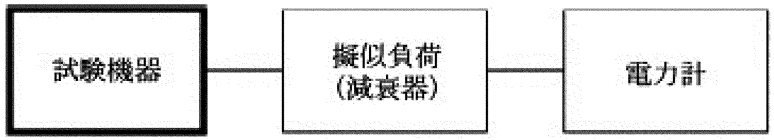
六の項の４に準ずる。

5　試験結果の記載方法

六の項の５に準ずる。

八　空中線電力の偏差

1　測定系統図



2　測定器の条件等

⑴　電力計の型式は、熱電対、サーミスタ等による熱電変換型又はこれらと同等の性能を有するものとする。
⑵　減衰器の減衰量は、電力計に最適動作入力レベルを与えるものとする。